



祝 創立90周年 垂高万歳！

垂高の歴史をちょっと振り返りましょう

平成27年11月14日(土)、小雨降る中、本校の創立90周年記念式典が厳粛な中、滞りなく執り行われました。午前9時から「亡師亡友の慰霊祭」が武道館であり、同窓会関係者及び生徒代表が、これまで本校に尽くして下さった恩師親友の御霊に玉串を奉奠しました。神主は、本校昭和29年卒業生の川崎遥氏にお願いしました。



式典の前に、オープニングアトラクションで生徒の有志による「よさこい踊り」(写真)が披露されました。記念式典では、第34代岸下純弘校長から、地域に支えられている本校として「母校のために何ができるか」と思考と実践を誓う式辞が述べられ、同窓会長で現垂水市長の尾脇雅弥氏の実行委員長として、また、垂水市長としての本校に対する支援について、挨拶等がありました。祝辞として、県知事(大隅地域振興局福山芳明総務企画部長代読)からは、「校訓の『和・学・行』を胸に理想を追求して」と励まされ、県教育委員会の山本英司委員からは、「校歌のとおり『飛躍はてなき明日を期す』ように学習や部活に邁進して」と温かいエールをいただきました。



生徒代表よろこびの言葉では、生徒会長の普通科2年生園田勝章くんが、「90年分の歴史を作り上げてこられた先輩方の思いを受け継ぎ、次の人たちにつないでいくこと。そして、垂水の地と地域の方々に感謝し、恩返しをしていくこと」を誓いました。記念講演会では、プロ総合格闘家の菊野克紀氏による「わくわくドキドキ」という演題で講演をいただきました。菊野さんからは、「人は心で思い、頭で考え、体で実行する。」として、自分の中の「わくわくドキドキ」を探して(思いっきり楽しんで)言霊を大事に(夢はことばで語れ、そうすることで実現する)挑戦すること(勝っても負けても何かを学ぶもの、だから何でも挑戦して)人間万事塞翁が馬(いいことも悪いことも、結果に左右されるな、大事なことは感謝すること)人を大切に(世の中は人でできている。自分も含めて全ての人を大切に)という5つの教えをもらいました。1時間半の講演でしたが、バット割りの実演や生徒との腕相撲、その他楽しい質問タイムなど、あっという間の講演会で、とても充実した時間でした。最後は、学年ごとの集合写真撮影までしてもらいました。菊野さん御講演本当にありがとうございました。これからも試合がんばってください。生徒職員一同、応援しています。おかげさまで、来賓の方々をはじめ、同窓会やPTA、地域の皆さん、祝電祝詞やお花等たくさんの御支援や御助力をいただき盛会裏に終えることができました。本当に、ありがとうございました。



本校は大正14年2月に鹿児島県肝属郡垂水尋常高等小学校併設実科高等女学校として、同年4月に垂水小学校の講堂の1教室を女学校教室に当て31人の入学生から始まりました。昭和に入り、昭和5年12月、現在の垂水市中央町14番地に本館2階建が建てられ、翌6年5月28日に落成式が挙行され、この日が創立記念日とされました。戦時中は、終戦の2か月前に本館が海軍病院に指定され、しばらく学校は旧専売所に移転しましたが、8月5日の空襲に遭い一切を消失しました。本校舎は戦災を免れ終戦を迎えました。昭和24年3月、新学



制による垂水高等学校第1回卒業式が行われ、昭和30年には「希望ははるか高限の」ではじまる現在の校歌が制定されました。翌31年4月に鹿児島県立垂水高等学校に改称されました。昭和46年には普通科12学級、家政科3学級の15学級になり、昭和47年、太陽国体のウエイティング会場になり、天皇皇后両陛下の行幸啓を受けました。時代は平成になり、人口の減少に伴い、平成3年に家政科が募集停止され生活デザイン科が設置されました。以降年ごとに学級減の状況になってきました。近年では、平成23年12月、弓道部が県高校弓道選手権大会で優勝し、翌年3月に全国大会に出場しました。この年から垂水市の支援策が策定され、本校の通学生に対する補助金や広報誌「タルタマ」の発行など、市をはじめ地域の皆さんの支援をいただき、「地域に貢献し、地域に支えられる学校」として、活性化に取り組み、平成27年度からは、難関大学現役合格者数日本一の大手予備校「東進ハイスクール」の衛星講座が受講できるシステムが導入され、今後の更なる飛躍が期待されています。「タルタマ」創刊号の表紙(H24)



